

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	民間住宅賃貸借分野における多文化共生意識啓発事業 ～外国人の部屋探しを考える～							
団体名	大田区							

***** 事業のポイント *****

～外国人の部屋探しを考える～

- ①「区内在住外国人実態調査」により「住まいを探す際に偏見や差別を感じる」という在住外国人の意見が多数存在することを把握
- ②「区内宅地建物取引業者アンケート」により貸し手の意識や課題を把握
- ③「オーナー・宅地建物取引業者向ハンドブック」「外国人向け(英・中)ハンドブック」の2種類を作成
- ④外国人の部屋探しの課題を区民と共に考えるためのシンポジウム「安心の鍵を貸す」を開催

助成年度	平成 23 年度地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	1,404 千円
------	-------------------------	------	----------

事業の内容、成果等

●事業目的

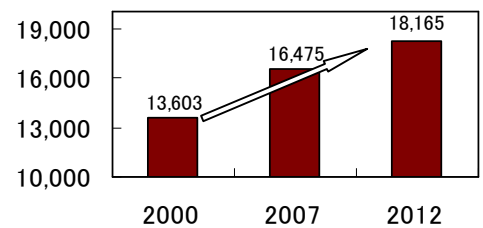
大田区在住の外国人は着実に増えている。さらに、日本の少子高齢社会の到来やグローバル化の進展から外国人の部屋探しの需要は、益々増加することが予想される。しかし、外国人が部屋を借りるには多くの課題が存在している。こうした状況を踏まえ、貸す側であるオーナー・宅地建物取引業者と部屋を借りたいと考えている外国人とがスムーズに契約し安定した生活を実現することを目的として「外国人の部屋探しハンドブック」を作成し、同時にシンポジウム「安心の鍵を貸す」を開催した。

●大田区の状況と課題

1 大田区の状況

大田区の人口は2012年1月1日現在694,524名でそのうち外国人登録者数は18,165名と区民全体の2.6%を占める。2000年から2012年までの推移をみると約4,500人増とゆるやかではあるが上昇を続けている。

外国人登録者数の推移



2 外国人が部屋探しをするうえでの課題

借り手、貸し手双方の意識調査からその課題と解決の方向性がうかがえる。

○外国人区民の意識

《多文化共生実態調査（平成21年実施）》から

- これからも大田区に住み続けたい (75%)
- 外国人が住まいを探すときに偏見や差別を感じている (50%)
- 実際に住まいを探すときにどのようなことで困ったか
 - ・敷金等の費用が高い (37.7%)
 - ・外国人であることで断られるなど (35.1%)

大田区に住む外国人にとって、大田区は住みやすく定住意向は非常に高いが、住まいを探すには不便又は困っている状況がある。

○オーナー・宅建業者の意識

部屋を貸す側からみると80%以上の方が外国人に「部屋を貸してもよい」「貸したことがある」と答えている。その一方で言葉や生活習慣、物事の考え方が異なるため、日本人に貸すよりトラブルが生じるのでは、と心配しているのも事実である。

《区内宅地建物取引業者へのアンケート結果》から

協力：公益社団法人東京都宅地建物取引業協会大田区支部

- 外国人に部屋を貸してもよいと考えている83%（51件）
- 外国人に部屋を貸したことがある92%（56件）
- 部屋を借りる外国人に望むこと…
 - ・生活・入居ルールの遵守・日本語力・日本文化の理解が上位にランク

●事業内容

1 部屋探しハンドブックの作成(2種類のハンドブック作成)

意識調査の結果から外国人が部屋を見つけやすくするためには、貸し手、借り手双方が互いに意識を変えることが必要である。それぞれに必要なとされる内容を中心に二つのハンドブックを作成。



《オーナー・宅地建物取引業者向けハンドブック》 15ページ

特徴

- ① オーナー・宅地建物取引業者への意識啓発を中心に編集。
- ② 大田区における外国人区民の状況、外国人居住者へのマナー周知の方法、困った場合の相談先などについて掲載。
- ③ 外国人が部屋を見つけやすくするために貸す側が持っている不安を取り除く内容として「外国人に認識してほしい点」「区の役割」「オーナー・宅地建物取引業者にお願いしたいこと」とそれぞれの立場でやるべきことを掲載。

《外国人向けハンドブック(英語・中国語)》 33ページ

特徴

- ① 日本と他の国では契約制度や部屋の賃貸借に関する考え方が根本的に異なるため、部屋探しから入居までの流れや退去時の諸注意を借りる側、貸す側の視点を踏まえて編集。
- ② 日本独特の保証人制度や数ヶ月分家賃の前払い、又貸し禁止のほか日本の生活習慣や守らなければならないマナーやルールなどの部屋を借りる際の注意点についてわかりやすく案内。

説明をする際に双方が理解しやすいように見開きで同じ内容の外国語・日本語の解説を載せたほか、部屋探しから契約、入居後の注意点など実用性、使いやすさを考慮している。



安心の鍵を貸す
 ～外国人の部屋探しを考える～
開催日: 平成24年2月21日(火)
時間: 19時00分～20時30分
内容: 第一部 講演 - 先進事例の紹介
 第二部 パネルディスカッション
会場: 消費者生活センター2階 大集会室

外国人への賃貸っていろいろ不安？
 近年日本での外国人居住者は増える一方、外国人が住宅を借りるには多くの難があるのが現状です。大田区では、CLAIR(財)自治体国際化協会)の助成を受け、「即座にハンドブック」を外国人向け、オーナー向けに発行致しました。このシンポジウムでは、実際に外国人の住宅問題に取組んでいる団体の先進事例を紹介し、外国人が「部屋を借りやすい環境作り」に何が必要か考えてみましょう。

アクセスマップ
 大田区地域振興部 地域振興課 多文化共生担当
 〒144-8621 東京都大田区蒲田5-13-14 6階
 問合せ
 多文化共生推進センター 03-6424-8822 (直通予約)

2 多文化共生街づくりシンポジウムの開催

《安心鍵を貸す～外国人の部屋探しを考える～》

ハンドブック作成を契機にこれを広く紹介すると共に地域と一体となって外国人の部屋探しを考える取り組みを実施。

第一部<講演>: 神奈川(横浜を中心とした)の先進事例を紹介

貸し手側が抱く外国人に対する不安をどのように取り除き外国人がより住みやすい環境づくりができるかについての事例を紹介。

第二部<パネルディスカッション>: 宅地建物取引業協会、外国籍区民、外国人の部屋探しを支援する団体から、それぞれの視点で外国人の部屋探しについての現状や課題、解決の方向性を考える。

○参加者: 約50人

○アンケート結果: 「役に立った」90%、

「今後賃貸を推進したい」が開催前27%⇒開催後57%

「賃貸してもよい」を加えると71%が賃貸に前向き

●今後の事業展開

大田区では2010年に開設したmics おおた(多文化共生推進センター)を中心に、外国人を対象とした多言語による生活相談や日本語教室などを実施している。相談に訪れた外国人だけでなく不動産業者・オーナーなどが言葉が通じず困っている状況があればハンドブックの活用や通訳を介して外国人が住みやすい環境を整備していく。

【多文化共生推進センター(mics おおた)】

Mics おおたホームページ <http://www.micsota.jp/>

大田区ホームページ <http://www.city.ota.tokyo.jp/>



- 多言語相談
- 通多言語相談
- 通訳・翻訳
- 日本語教室
- イベント・講座情報
- 多目的スペースの貸出